

たものと考えられる。ナンテンハギの奇形として普通の2小葉といくつかの3小葉を同時に持つ個体が報告されている(伊藤 1960)。この奇形の3小葉も葉軸先端の小突起が小葉に変わった例であるが、頂小葉は側小葉よりも小さく長い小葉柄があり、函館市の個体における3小葉とは全く異なっている。函館市の個体は明らかに奇形であると思われるが、安定した一型と思われる。調べたところ、この形は中国ですでに発見されており、典型的な型から変種として識別されていることが分かった。

た。本報告では、1) 3小葉型のナンテンハギの一型が日本に分布することを示し、2) この型が分類群として認められるが、他の特徴ではナンテンハギとの間で違いがないことから品種ランクで区別し、ミツバナンテンハギと新称することを提案した。

(*茨城大学理学部、

E-mail: endoy@mx.ibaraki.ac.jp

^b東北大学附属植物園津田記念館)

Eisuke HAYASAKA: A New Combination in Japanese *Schoenoplectus* (Cyperaceae) 日本産カヤツリグサ科フトイ属植物の一新組み合わせ (早坂英介)

Hayasaka and Ohashi (2000) proposed five new combinations required for Japanese species and hybrids of *Schoenoplectus* (Rchb.) Palla. A new combination, which was overlooked in that paper, is proposed here.

Schoenoplectus × *osoreyamensis* (M. Kikuchi) Hayasaka, comb. nov.

Scirpus × *osoreyamensis* M. Kikuchi, Ann. Rep. Gakugei Fac. Iwate Univ. **18**: 131 (1961), as *S. hondoensis* Ohwi × *S. triangu-*

latus Roxb.

References

Hayasaka E. and Ohashi H. 2000. New combinations in Japanese *Schoenoplectus* (Cyperaceae). J. Jpn. Bot. **75**: 223–225.

オソレヤマオトコイの学名を *Scirpus* から *Schoenoplectus* に組み替えた。

(Botanical Garden, Tohoku University

E-mail: ehayasaka@mail.goo.ne.jp)

トウゴクサバノオの北限追記 (大橋広好)

Hiroyoshi OHASHI: An Additional Note on the Northernmost Locality of *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang & Hsiao (Ranunculaceae) in Japan

最近本誌80巻57–60でトウゴクサバノオの北限は岩手県大船渡市赤崎町後入であることを報告した(大橋, 吉田 2005)。この記録を見て石巻市の佐々木豊氏が1996年にこの産地よりも約6 km 北に位置する大船渡市立根町細野沢で本種を採集していたことを知らせて下さった。証拠標本を東北大学に保存するとともに、先の記録を正しておきたい。また、前報で後の入りを「五葉山の南約7 kmの地点」としたが、「南約14km」の誤記であった。この点も訂正したい。立根町細野沢は五葉山の南約8.5 km に位置する。佐々木氏によれ

ば、細野沢は立根川の支流で、生育地は同沢の右岸、標高約200 mの北西斜面であり、サワグルミ・カツラ群落の林床に50–60個体が生育していた。この群落の構成種は高木：カツラ(胸高直径 ca. 55 cm)、サワグルミ(胸高直径 ca. 42 cm)、ハウノキ、ハリギリ、ミズキ。亜高木：サワシバ、チドリノキ、ウワミズザクラ、アワブキ。低木：ヤマモミジ、ヤマブキ、スズタケ、ハナイカダ。草本：トウゴクサバノオの他に、ウワバミソウ、ウスバサイシン、サラシナショウマ、コンロンソウ、ヤグルマソウ、キタカミスミレ、ヒカゲ